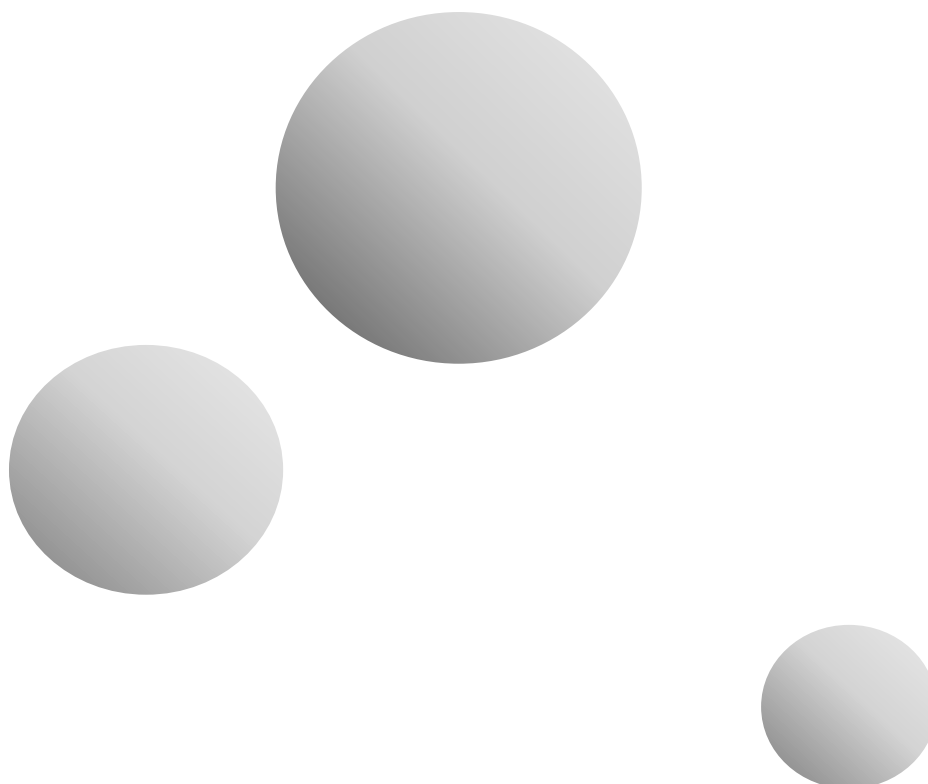


第6章

がん対策推進計画（第2次）

～予防と早期発見による、がんの死亡率減少～



1. 自分の健康は自分で守るという意識の啓発

▶ 現状と課題

がんになる危険性を高める要因の多くは、生活習慣を改善することで減らすことができ、がんになる確率を低くすることができます。また、ウイルスや細菌等の持続感染も発がんに深く関係していることがわかっています。

がんは、早期に発見し、有効な治療を受けることにより治癒する確率が高くなり、予後も良好となります。こうしたことから、広報をはじめとした情報媒体及び検診やイベント等を通じて、がんに関する情報を発信していくことが重要です。

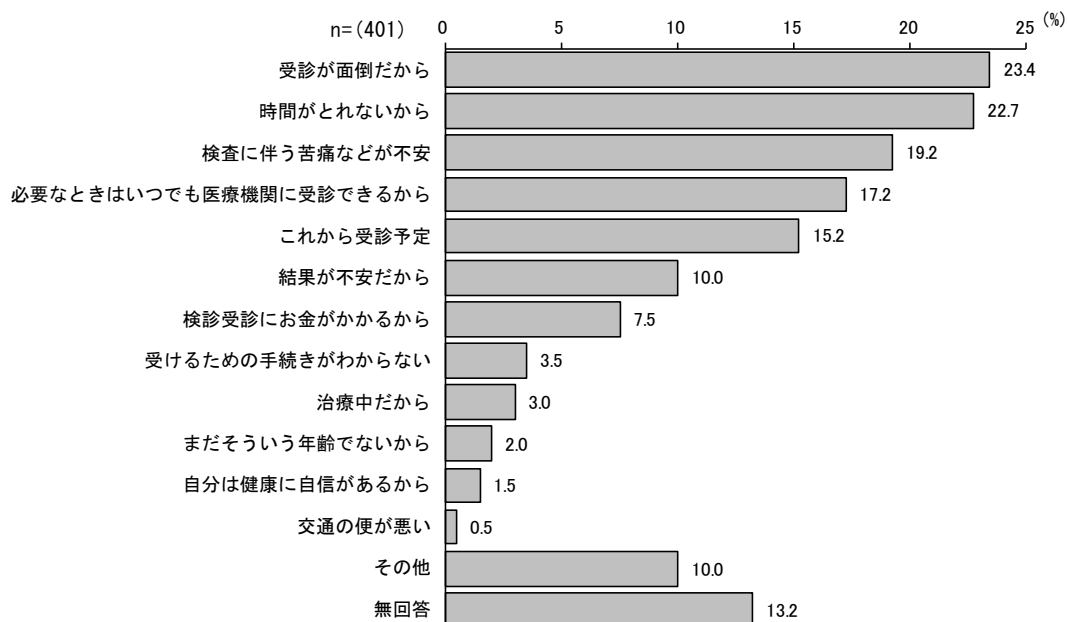
また、生涯にわたってがんになりにくい生活を送るには、成人期以前に正しい生活習慣を確立することが重要です。そのため、市内の学校と協力し、小学生からがん教育を実施し、がんに関する知識の普及をすることが大切です。

本市では、平成25年3月に策定した「がん対策推進計画（第1次）」に基づき、様々な機会をとらえてがん教育を実施し、知識の普及・啓発に努めてきました。今後も啓発活動をさらに推進するとともに、がん予防と早期発見についての関心を高めていく必要があります。

●がん検診や健康診断を受けていない理由

市民アンケートの結果によると「がん検診や健康診断を受けていない理由」として「受診が面倒だから」、「時間がとれないから」、「必要なときはいつでも医療機関に受診できるから」が上位を占めています。がんは誰にでも起こりうる身近な疾病であり、がん検診の重要性についてさらなる意識が必要と考えます。

■ がん検診や健康診断を受けていない理由（40歳～69歳）



資料：市民アンケート（平成28年7月実施）

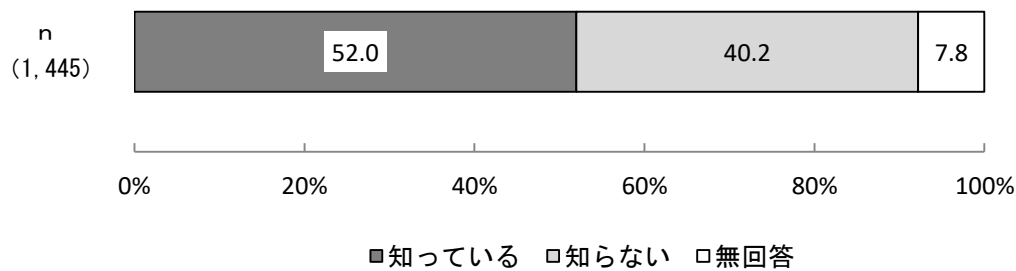
●市のがん検診について

市で行っているがん検診については、平成25年3月のがん対策推進計画（第1次）策定後、広報やホームページ、子どもの健診や団体の会合等の様々な機会を通じて周知してきました。

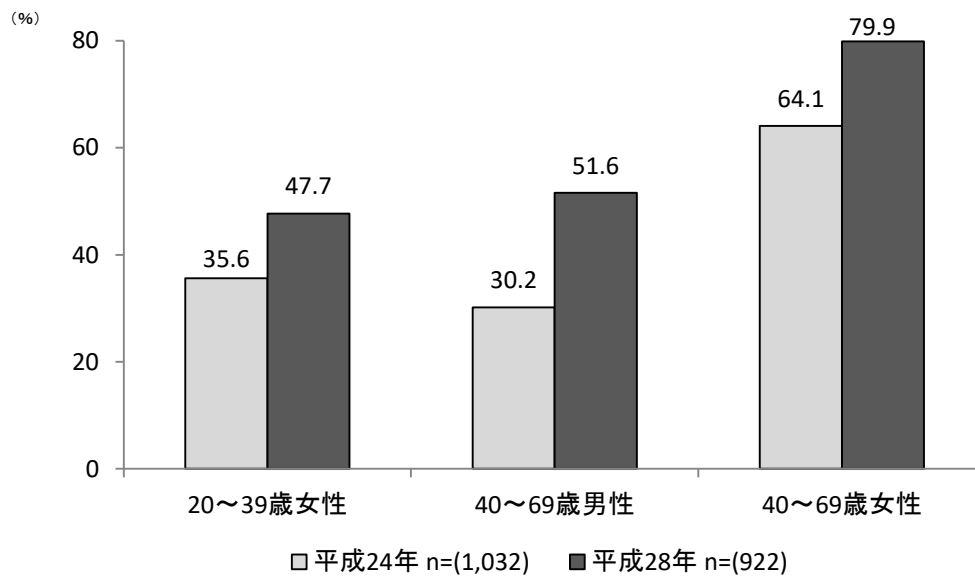
市民アンケートの結果によると、市のがん検診の申し込み方法を知っている人の割合は、がん対策推進計画（第1次）策定のためのアンケート結果と比較してすべての年齢で増えており、特に40～69歳男性では21.4%増加し、51.6%となっています。

しかし、市のがん検診の種類について知らない人の割合は40.2%であり、今後も引き続き周知していく必要があります。

■市のがん検診の種類について知っている人の割合



■市のがん検診の申し込み方法を知っている人の割合

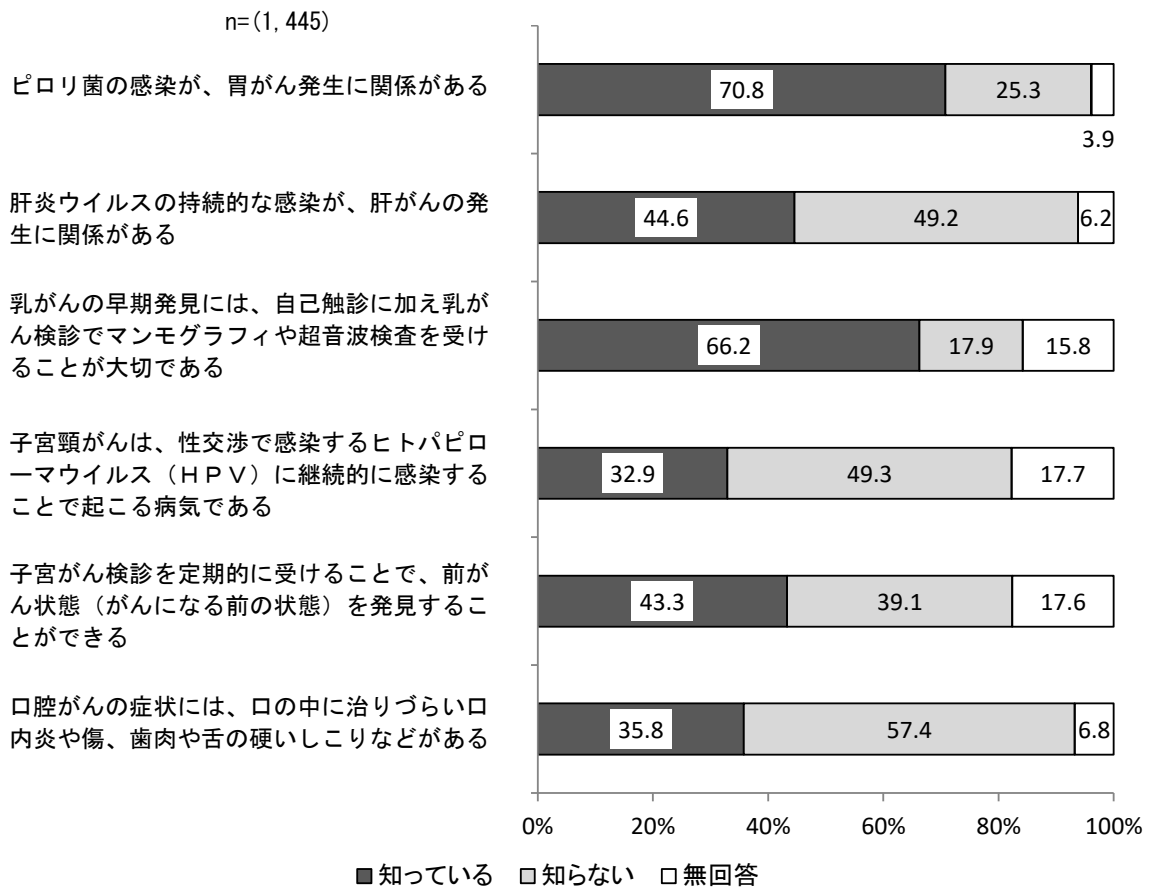


●がんについて知っていること

がんについて知っていることとして、ピロリ菌^{※1}の感染が胃がん発生に関係があることを知っている人の割合は70.8%、乳がんの早期発見方法を知っている人の割合は66.2%と、市民の認知度が6割を超えていました。

一方、肝炎ウイルスの持続的な感染が肝がんの発生に関係があることを知っている人の割合は44.6%、子宮頸がんは、性交渉で感染するヒトパピローマウイルス（HPV）^{※2}に継続的に感染することで起こる病気であることを知っている人の割合は32.9%、子宮がん検診を定期的に受けることで前がん状態を発見することができることに知っている人の割合は43.3%、口腔がんの症状を知っている人の割合は35.8%と認知度が低いため、さらなる周知が必要です。

■ がんについて知っていること



資料：市民アンケート（平成28年7月実施）

※1 ピロリ菌

ヘリコバクター・ピロリのこと。人などの胃の粘膜に生息している細菌で胃粘膜を傷つけて慢性胃炎、胃・十二指腸潰瘍、胃がん等の原因になると考えられている。

※2 ヒトパピローマウイルス（HPV）

子宮頸がん等の原因となるウイルス。性交渉で感染すると考えられている。

【がん検診の実施状況（平成28年度）】

本市では、以下のがん検診を実施しています。検診を受診するためには、事前の申し込みが必要です。一度検診を受診すると、翌年も案内が送付されます。

	対 象	検 査 内 容	検診方法	自己負担金
胃がん検診	40歳以上の男女	胃部レントゲン検査 (バリウム剤使用)	集団検診	900円
肺がん検診	40歳以上の男女	胸部レントゲン検査 (高リスク者は、喀痰細胞診も実施)	集団検診	胸部レントゲン 無料 喀痰細胞診 700円
大腸がん検診	40歳以上の男女	便潜血検査	集団検診	500円
乳がん検診	30歳以上の女性	マンモグラフィ検査	個別検診	300円
		超音波検査	集団検診	
子宮がん検診	20歳以上の女性	子宮頸部細胞診 (個別検診において、不正出血等高リスク者は体部細胞診も実施)	個別検診	個別検診 頸部 1,000円 頸部・体部 1,500円
			集団検診	集団検診 頸部 600円
前立腺がん検診	50歳以上の男性	血液検査 (前立腺特異抗原検査)	集団検診	300円
肝炎ウイルス検査	40歳以上の男女 (今まで市の肝炎ウイルス検査を受けていない人)	血液検査 (B型肝炎ウイルス検査、C型肝炎ウイルス検査)	集団検診	無 料

※年度末時点の年齢が70歳以上の人及び生活保護世帯の人は、自己負担金はありません。

市民の取り組み

- がんについての情報に関心を持ちましょう。
- がんとがん予防に関する知識を持ちましょう。
- がん検診について家族や友人、知人に知らせましょう。

市の取り組み

- 保健事業や各種団体の活動等、あらゆる機会を利用して、引き続きがんに関する情報の提供や、がん予防の知識の普及を行います。
- 年に1回がん検診を受けることの重要性について、普及啓発していきます。
- 子どもや保護者が、がんへの関心を高め、がんに関する知識が身につくよう、支援していきます。
- イベントや講演会等を行い、がん予防と早期発見について、市民の関心をさらに高めていきます。

■目標値

項目	平成28年度 現状値	平成38年度 目標値
市のがん検診の申し込み方法について知っている人の割合	40～69歳男性 51.6% 40～69歳女性 79.9%	80.0% 90.0%
市のがん検診の種類について知っている人の割合	52.0%	80.0%
乳がんの早期発見には自己触診に加え検診が有効と知っている人の割合	20～39歳女性 91.7% 40～69歳女性 94.2%	100%
子宮頸がんはHPVの持続感染が関係あることについて知っている人の割合	20～39歳女性 60.6% 40～69歳女性 50.3%	80.0%
ピロリ菌の感染が、胃がん発生に関係があることについて知っている人の割合	70.8%	80.0%
肝炎ウイルスの持続的な感染が、肝がんの発生に関係があることについて知っている人の割合	44.6%	60.0%
口腔がんの症状を知っている人の割合	35.8%	50.0%

2. がんの予防

▶ 現状と課題

がんの要因として、老化や喫煙（受動喫煙を含む）、食生活、ウイルス感染、環境汚染、遺伝的要因等、多くのものが関連していますが、特に大きな要因として言われているのが喫煙や食生活等の生活習慣です。そのため、生活習慣の改善こそが、がんを予防し、罹患を減少させると指摘されています。

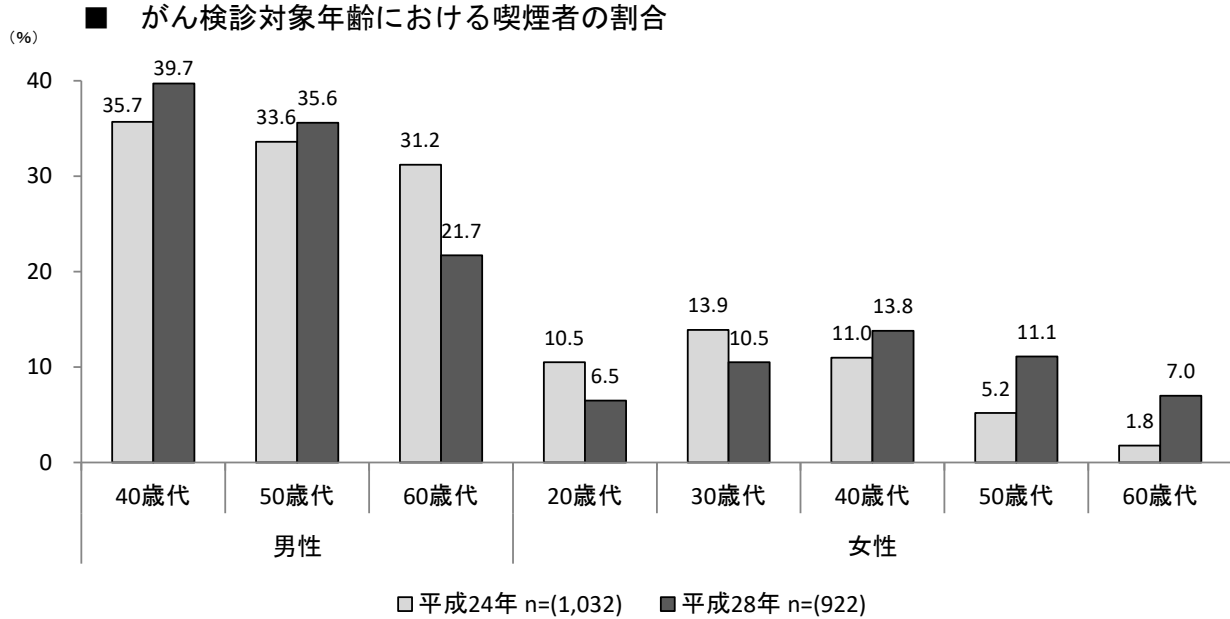
特に喫煙は、予防可能な最大の原因と考えられており、本市でも禁煙について、がん対策推進計画（第1次）に基づき啓発活動を実施してきました。しかし、本市のがん検診対象年齢（男性は40歳以上、女性は20歳以上）における喫煙率は、40歳代を例にすると、平成25年3月の「匝瑳市がん対策推進計画（第1次）」策定時には、男性は35.7%、女性は11.0%でしたが、平成28年に実施した市民アンケートでは、男性は39.7%、女性は13.8%に増加しています。これまで、禁煙について啓発活動等を実施してきましたが、十分な成果を上げておらず、禁煙希望者への個別相談や情報提供を充実させるとともに、啓発活動をさらに推進していく必要があります。

また、一部のがんにはウイルスや細菌が関係しているものもあります。特にB型・C型肝炎ウイルスは感染しても症状が出にくく、自覚症状がないまま、気が付いた時には肝硬変や肝がんになっていたというケースも少なくありません。肝炎ウイルス検査は、感染者を早期に発見し、適切な治療を受けることで肝がん患者を減少させることができるため、受診の啓発が重要となります。

こうしたことから、ヘルスプロモーションの考え方を浸透させるとともに、がんの予防に関する正しい知識を発信し、市民が健康的な生活習慣を身につけられるように支援していくことが必要です。

●がん検診対象年齢における喫煙者の割合

がん検診対象年齢における喫煙者の割合を性別・年齢別で見ると、特に60歳代の男性の減少が約10%と大きくなっています。一方で喫煙率が増加している年代もあり、他の年代に比べて喫煙率が高かった40歳代及び50歳代の男性でも増加がみられました。

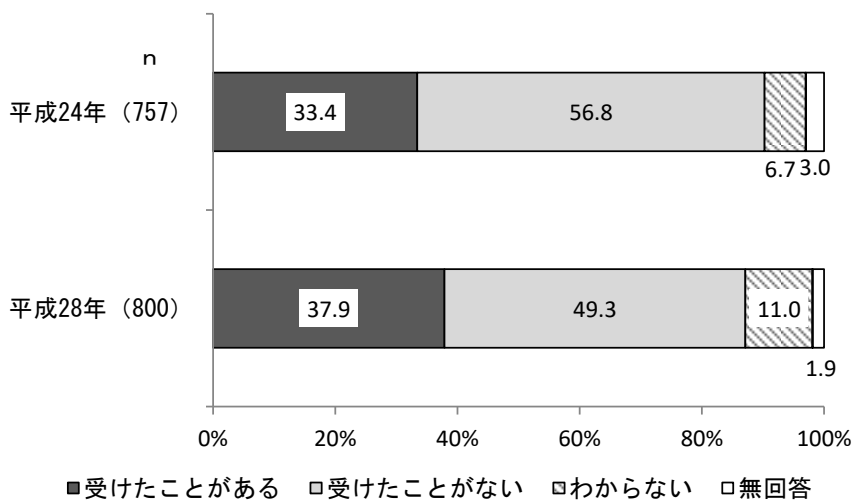


資料：匝瑳市がん対策推進計画策定のためのアンケート 平成24年
市民アンケート（平成28年7月実施）

●肝炎ウイルス検査を受けたことがあると回答した人の割合

市民アンケートによると、肝炎ウイルス検査を受けたことがあると回答した人の割合は、37.9%となっており、今後も受診勧奨を行っていく必要があります。

■ 肝炎ウイルス検査を受けたことがあると回答した人の割合（40歳～69歳）



資料：匝瑳市がん対策推進計画策定のためのアンケート 平成24年
市民アンケート（平成28年7月実施）

▶ 市民の取組み

- がんの予防に積極的に取り組みましょう。
- 喫煙及び受動喫煙の害について、正しい知識を持ちましょう。
- 喫煙者は禁煙に取り組みましょう。
- 肝炎ウイルス検査を受診しましょう。

▶ 市の取組み

- がんの予防に効果のあるとされている生活習慣について、健康増進計画と連携し情報提供を行っていきます。
- 喫煙及び受動喫煙の害についての知識の普及を引き続き行います。禁煙の個別相談を実施し、禁煙外来や禁煙補助剤等についての情報提供を行っていきます。
- 肝炎ウイルス検査を引き続き実施し、検査未受診者に対し、受診勧奨を行っていきます。
- 肝炎ウイルスの感染と肝がんの関係について、知識の普及を行います。
- 肝炎ウイルス検査で検査結果が陽性の受診者に対し、精密検査の受診勧奨を行っていきます。
- 子宮頸がん予防ワクチンのメリット・デメリットについて、情報提供を行います。
- 最新の情報を市民に提供できるよう、国の動向に注目していきます。

■ 目標値

項目	平成28年度 現状値	平成38年度 目標値
喫煙者の割合	20～69歳男性 28.4% 20～69歳女性 9.8%	20.0% 5.0%
肝炎ウイルス検査を受けたことがあると回答した人の割合	40～69歳 37.9%	50.0%

【科学的根拠に基づくがん予防】

—現状において日本人に推奨できる科学的根拠に基づくがん予防法—

喫煙	たばこは吸わない。他人のたばこの煙を避ける。
飲酒	飲むなら、節度のある飲酒をする。
食事	食事は偏らずバランスよくとる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 塩蔵食品^{※1}、食塩の摂取は最小限にする。 ・ 野菜や果物不足にならない。 ・ 飲食物を熱い状態でとらない。
身体活動	日常生活を活動的に。
体形	適正な範囲に。
感染	肝炎ウイルス感染検査と適切な措置を。 機会があればピロリ菌検査を。

資料：国立がん研究センター 平成28年

※1 塩蔵食品

長期保存や味を付けるために食塩に漬けた食品のことをいう。

3. がんの早期発見

▶ 現状と課題

本市では、国が示す「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」（平成28年2月4日健発0204第13号一部改正）を踏まえ、科学的根拠に基づく正しいがん検診の実施を推進しています。また、本市では独自に前立腺がん検診を実施しています。

がん検診の目的は、がんを早期発見し、適切な治療を行うことでがんによる死亡を減少させることです。このため、本市においても平成25年3月に策定したがん対策推進計画（第1次）に基づき、がん検診の受診率の向上等を目標に掲げ、目標達成に向けた取り組みを推進してきました。

市民アンケート調査でがん検診を1年以内に受けたと回答した人の割合と、市が実施するがん検診の受診率は、増加している検診があるものの、依然横ばいの検診もあるため、さらなる向上が求められています。

現在、がん検診の精密検査結果については、検診実施医療機関と連携して受診状況の調査を行い、この結果をもとに、精密検査の未受診・未把握者に対する追跡調査や受診勧奨を実施しています。がんの早期発見・早期治療推進のために、今後ともがん検診要精密検査者へのフォロー体制を強化していくことが求められます。

こうしたことから、がんの診断や治療についても、医療や福祉分野からの情報収集に努め、市民への情報提供を行っていく必要があります。

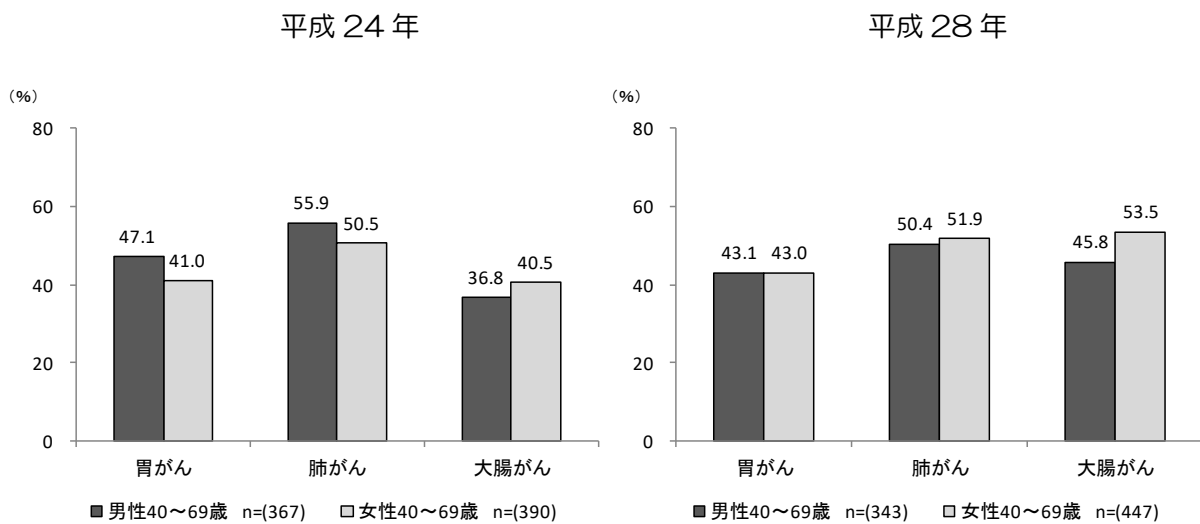
また、乳がんは日常の健康管理の一環として実施する自己触診によって、発見される場合があります。自己触診の方法を知っている人の割合は増加しましたが、実施率は微減しています。乳がんの早期発見のための自己触診の方法と、定期的な実施の重要性について、引き続き普及啓発していく必要があります。

●がん検診を1年以内に受けたと回答した人の割合

市が実施するがん検診や職場等で実施されるがん検診、個人で受診するがん検診など、がん検診を1年以内に受けたと回答した人の割合は、平成25年3月の「匝瑳市がん対策推進計画（第1次）」策定時と比較すると、大腸がん検診と乳がん検診で増加しています。

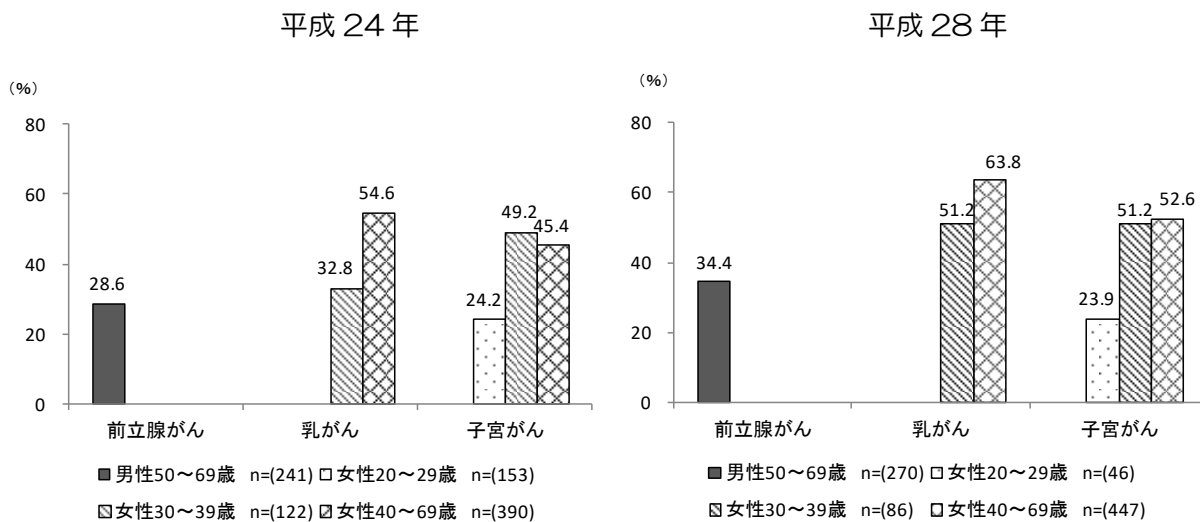
また、男女別にみると、男性では大腸がん検診と前立腺がん検診を1年以内に受けたと回答した人の割合が増加しています。女性では子宮がん検診の20歳から29歳の回答を除き、増加しています。

■ がん検診を1年以内に受けたと回答した人の割合（胃、肺、大腸がん検診）



資料：匝瑳市がん対策推進計画策定のためのアンケート 平成24年
市民アンケート（平成28年7月実施）

■ がん検診を1年以内に受けたと回答した人の割合（前立腺、乳、子宮がん検診）



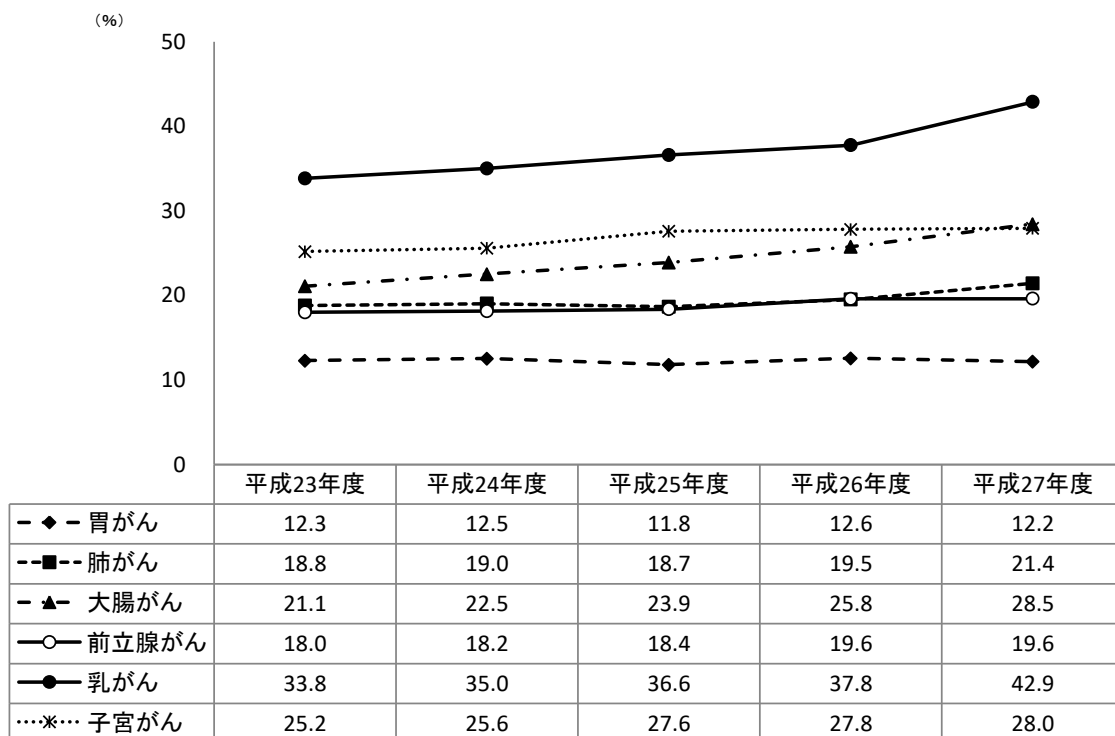
資料：匝瑳市がん対策推進計画策定のためのアンケート 平成24年
市民アンケート（平成28年7月実施）

●市のがん検診受診率の推移

市で実施しているがん検診の受診率は、平成25年3月のがん対策推進計画（第1次）策定後、肺がん検診で2.4%、大腸がん検診で6.0%、乳がん検診で7.9%増加しており、取組みの成果が出ています。しかし、胃がん検診は受診率が横ばいであり、今後もさらなる取組みが必要です。

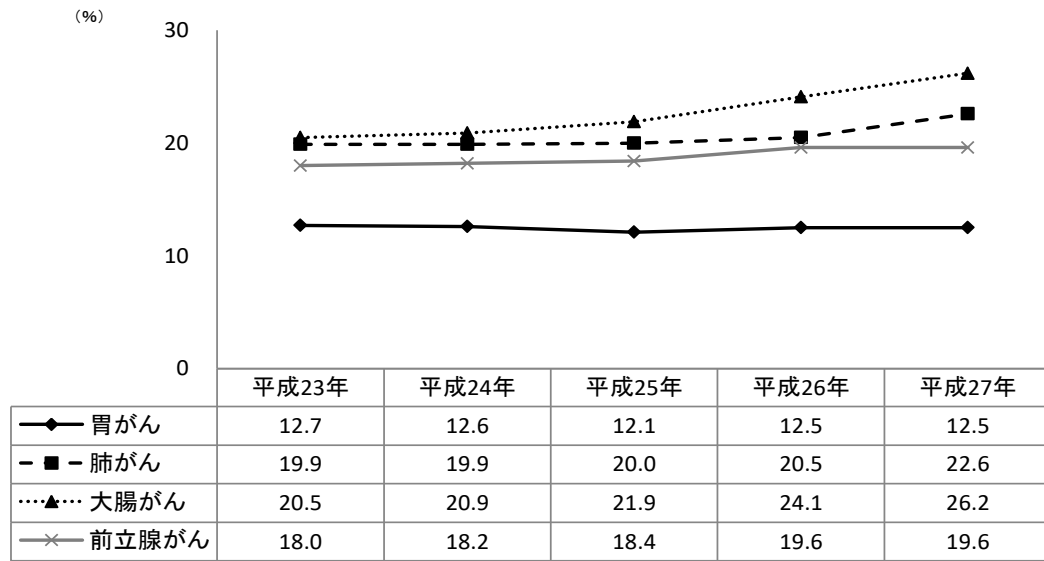
また、受診率が最も高い検診は、男性では大腸がん検診で 26.2%、女性では乳がん検診で 42.9%でした。

■ 市で実施しているがん検診受診率の推移（全体）



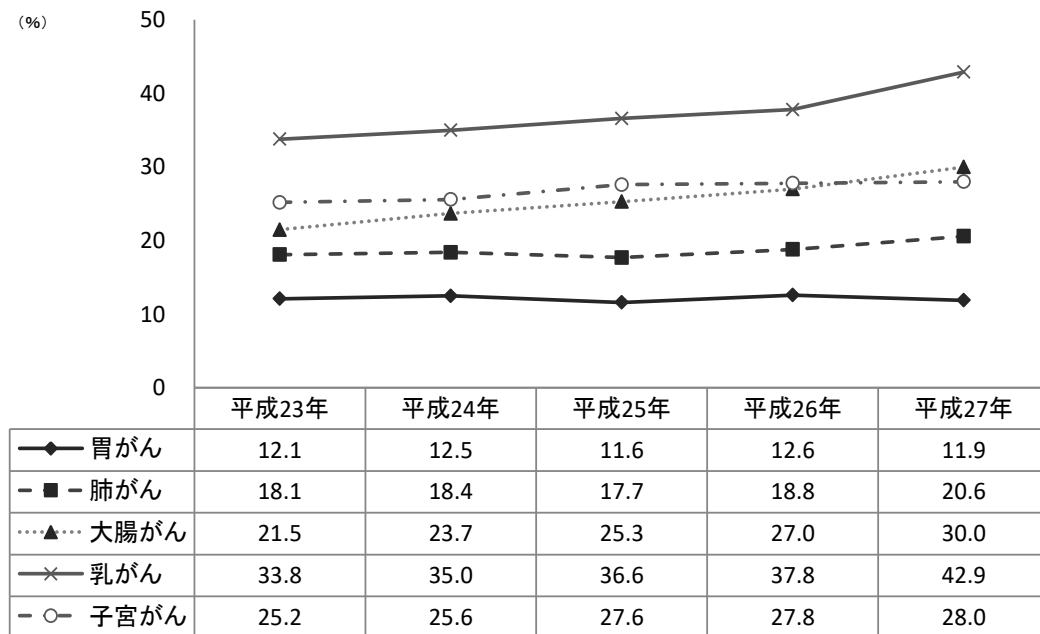
資料：匝瑳市がん検診実績

■ 市で実施しているがん検診受診率の推移（男性）



資料：匝瑳市がん検診実績

■ 市で実施しているがん検診受診率の推移（女性）

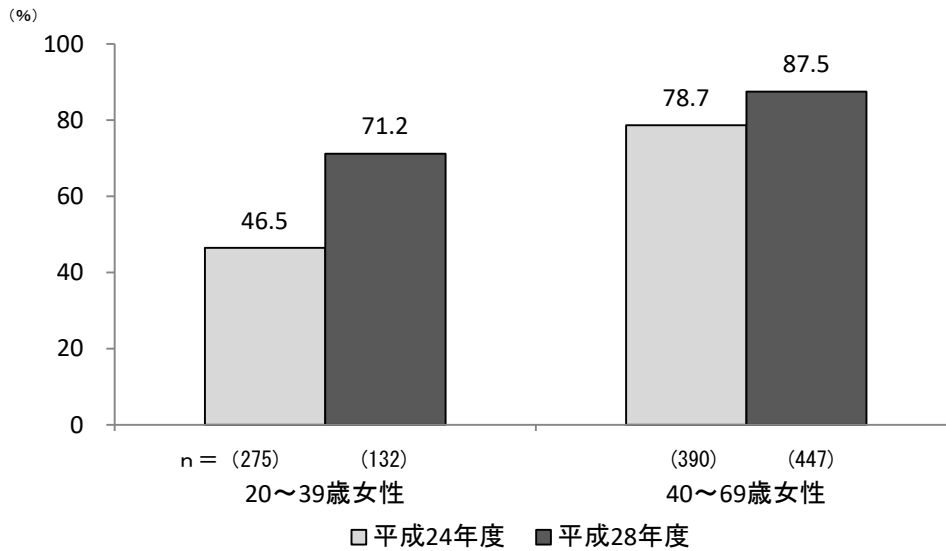


資料：匝瑳市がん検診実績

●乳がん検診の自己触診について

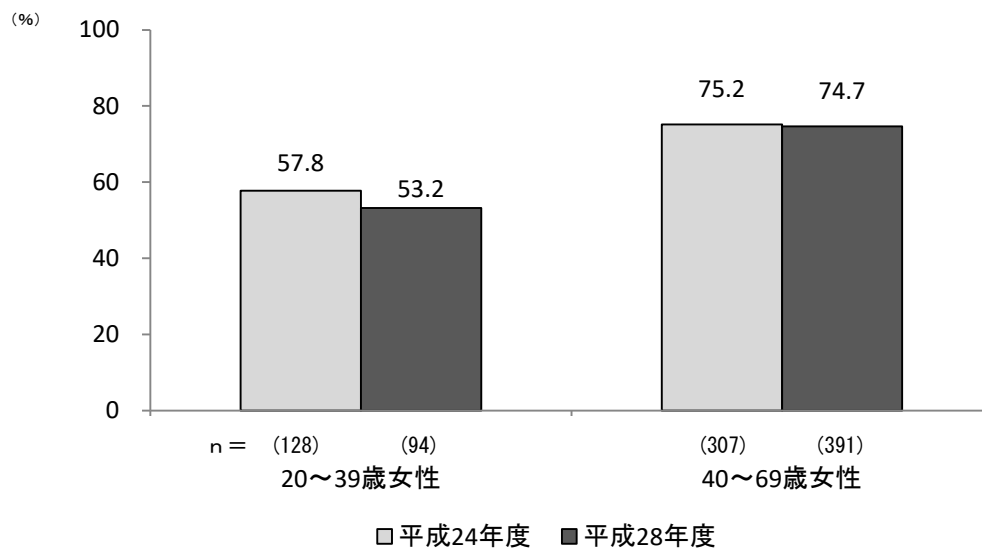
乳がんの自己触診方法について、知っているとは回答した人の割合は、がん対策推進計画（第1次）策定時と比較して増加しています。特に20～39歳の女性は71.2%が知っており、24.7%増加しています。しかしながら、自己触診の方法を知っていると回答した人のうち、実施している人の割合は微減しており、自己触診の方法を知っているが実施はしていない人が多い状況です。

■ 乳がんの自己触診の方法を知っていると回答した人の割合



資料：匝瑳市がん対策推進計画策定のためのアンケート 平成24年市民アンケート（平成28年7月実施）

■ 乳がんの自己触診の方法を知っていると回答した人のうち、自己触診を行っている人の割合



資料：匝瑳市がん対策推進計画策定のためのアンケート 平成24年市民アンケート（平成28年7月実施）

▶ 市民の取組み

- がん検診を積極的に受けましょう。
- 精密検査が必要と判定されたら、必ず精密検査を受けましょう。
- 乳がんの自己触診を毎月行いましょう。

▶ 市の取組み

- 国の指針や前立腺がん検診ガイドライン、千葉県乳がん検診ガイドラインに基づいたがん検診を実施します。
- 対象者に応じた対策等、効率的で効果的な検診の受診勧奨を行っていきます。
- これまでの取組みや効果を踏まえ、市民が受けやすいがん検診の実施体制を整備していきます。
- 引き続き、検診時に検診方法や精密検査の内容及び必要性についての説明を十分に行っていきます。
- 精密検査の受診状況を把握し、未受診者に対し早期の受診を促します。
- 乳がん検診やその他の機会を利用し、乳がんの自己触診の方法と定期的な実施の重要性について伝えていきます。
- がんの診断や治療については、医療や福祉分野と連携し、継続して情報提供を行っていきます。

■目標値

項目	平成28年 現状値		平成38年 目標値	
	がん検診を1年以内に受けたと回答した人の割合	胃がん検診	40～69歳男性 43.1%	50.0%
40～69歳女性 43.0%				
肺がん検診		40～69歳男性 50.4%	60.0%	
		40～69歳女性 51.9%		
大腸がん検診		40～69歳男性 45.8%	60.0%	
		40～69歳女性 53.5%		
前立腺がん検診	50～69歳男性 34.4%	50.0%		
乳がん検診	30～39歳女性 51.2%	65.0%		
	40～69歳女性 63.8%			
子宮がん検診	20～39歳女性 41.7%	60.0%		
	40～69歳女性 52.6%			
市のがん検診受診率	胃がん検診	40歳以上男性 12.5%	15.0%	
		40歳以上女性 11.9%		
	肺がん検診	40歳以上男性 22.6%		25.0%
		40歳以上女性 20.6%		
	大腸がん検診	40歳以上男性 26.2%		35.0%
		40歳以上女性 30.0%		
前立腺がん検診	50歳以上男性 19.6%	25.0%		
乳がん検診	30歳以上女性 42.9%	45.0%		
子宮がん検診	20歳以上女性 28.0%	30.0%		
市のがん検診に係る精密検査受診率	胃がん検診	95.4%	すべての検診で100%	
	肺がん検診	98.3%		
	大腸がん検診	91.8%		
	前立腺がん検診	100%		
	乳がん検診	98.9%		
	子宮がん検診	100%		
乳がんの自己触診の方法を知っていると回答した人の割合	20～39歳女性 71.2%	90.0%		
	40～69歳女性 87.5%			
乳がんの自己触診実施率 ※ 乳がんの自己触診の方法を知っていると回答した人のうち、自己触診を行っている人の割合	20～39歳女性 53.2%	80.0%		
	40～69歳女性 74.7%			

※ 「市のがん検診受診率」及び「市のがん検診に係る精密検査受診率」の現状値は平成27年度検診の実績値

全体目標及びがん対策推進計画（第1次）の達成状況

（1）全体目標

項目	がん対策推進計画（第1次）策定時の値 （平成19～23年）	現況値 （平成23～27年）	がん対策推進計画 （第1次）の目標値 （平成29年度）	がん対策推進計画 （第2次）の目標値 （平成38年度）
がんによる75歳未満年齢調整死亡率 （人口10万対）	男性 111.4 女性 63.4	男性 107.9 女性 67.8	男性 94.2 女性 51.7	同左

がんによる死亡の動向をみるには、高齢化等による影響を除いた75歳未満年齢調整死亡率を用います。上の表を見るとがん対策推進計画（第1次）策定時の値と現況値で大きな変化は見られず、依然として平成27年度の県の値（男性96.3、女性57.5）より高くなっています。

がん対策推進計画（第1次）では、県の目標値と同じ男性94.2、女性51.7を目指しました。がん対策推進計画（第2次）においても引き続き、県の目標値を数値目標とし、達成に向けて取組みを進めていきます。

(2) がん対策推進計画（第1次）の達成状況

平成 25 年 3 月に策定したがん対策推進計画（第 1 次）で掲げた目標の達成に向けて、計画を推進してきました。目標の達成状況は、下記のとおりです。

項目		がん対策推進計画（第1次） 策定時の値 （平成24年）	がん対策推進計画（第1次） の目標値 （平成29年度）	現況値 （平成28年）	達成状況	
受動喫煙の害について 知っている人の割合 ※ アンケート結果から	20～39 歳女性	93.8%	増加	94.7%	達成 達成 未達成	
	40～69 歳男性	94.8%		95.3%		
	40～69 歳女性	97.4%		91.1%		
喫煙者の割合 ※ アンケート結果から	20～39 歳女性	12.0%	減少	9.1%	達成 達成 未達成	
	40～69 歳男性	33.5%		29.2%		
	40～69 歳女性	6.4%		10.1%		
肝炎ウイルス検査を受けた ことがあると回答した 人の割合 ※ アンケート結果から	40～69 歳男性	26.7%	増加	33.2%	達成 達成	
	40～69 歳女性	39.7%		41.8%		
子宮頸がんについて知っ ている人の割合 ※ アンケート結果から、「子宮頸 がんはヒトパピローマウイルス （HPV）に継続的に感染するこ とでおこる病気である」ことを 知っている人の割合	20～39 歳女性	39.3%	増加	60.6%	達成 達成	
	40～69 歳女性	40.8%		50.3%		
乳がんについて知ってい る人の割合 ※ アンケート結果から、「乳がん の早期発見には自己触診に加 え、乳がん検診でマンモグラ フィ検査や超音波検査を受け ることが大切である」ことを知 っている人の割合	20～39 歳女性	75.6%	増加	91.7%	達成 達成	
	40～69 歳女性	84.6%		94.2%		
市のがん検診の申込方法 について知っている人の 割合 ※ アンケート結果から	20～39 歳女性	35.6%	増加	47.7%	達成 達成 達成	
	40～69 歳男性	30.2%		51.6%		
	40～69 歳女性	64.1%		79.9%		
がん検診を1 年以内に受け たと回答した 人の割合 ※ アンケート結 果から	胃がん 検診	40～69 歳男性 41.0%	すべての 検診で 50%以上	43.1%	未達成 未達成	
	肺がん 検診	40～69 歳男性		55.9%	50.4%	達成
		40～69 歳女性		50.5%	51.9%	達成
	大腸がん 検診	40～69 歳男性		36.8%	45.8%	未達成
		40～69 歳女性		40.5%	53.5%	達成
	前立腺 がん検診	50～69 歳男性		28.6%	34.4%	未達成
	乳がん 検診	30～39 歳女性		32.8%	51.2%	達成
40～69 歳女性		54.6%	63.8%	達成		
子宮がん 検診	20～39 歳女性	35.3%	41.7%	未達成		
	40～69 歳女性	45.4%	52.6%	達成		

項目			がん対策推進計画（第1次） 策定時の値 （平成24年）	がん対策推進計画（第1次） の目標値 （平成29年度）	現況値 （平成28年）	達成状況
市のがん検診の受診率 ※ 市がん検診実績から、第1次計画は平成23年度実績、第2次計画は平成27年度実績	胃がん検診	40歳以上男性	12.7%	増加	12.5%	未達成
		40歳以上女性	12.1%		11.9%	未達成
	肺がん検診	40歳以上男性	19.9%		22.6%	達成
		40歳以上女性	18.1%		20.6%	達成
	大腸がん検診	40歳以上男性	20.5%		26.2%	達成
		40歳以上女性	21.5%		30.0%	達成
前立腺がん検診	50歳以上男性	18.0%	19.6%	達成		
乳がん検診	30歳以上女性	33.8%	42.9%	達成		
子宮がん検診	20歳以上女性	25.2%	28.0%	達成		
市のがん検診に係る精密検診受診率 ※ 市がん検診実績から、第1次計画は平成23年度実績、第2次計画は平成27年度実績	胃がん検診		90.4%	100%	95.4%	未達成
	肺がん検診		93.8%		98.3%	未達成
	大腸がん検診		85.5%		91.8%	未達成
	前立腺がん検診		89.7%		100%	達成
	乳がん検診		100%		98.9%	未達成
	子宮がん検診		100%		100%	達成
乳がんの自己触診の方法を知っている人の割合 ※ アンケート結果から	20～39歳女性		46.5%	増加	71.2%	達成
	40～69歳女性		78.7%		87.5%	達成
乳がんの自己触診の方法を知っている人のうち、乳がんの自己触診の実施率 ※ アンケート結果から	20～39歳女性		57.8%	増加	53.2%	未達成
	40～69歳女性		75.2%		74.7%	未達成
口腔がんの症状を知っている人の割合 ※ アンケート結果から	40～69歳男性		19.9%	50%	34.4%	未達成
	40～69歳女性		32.1%		43.0%	未達成

がん検診の受診率やがんの知識面で増加がみられており、目標がおおむね達成されています。未達成の部分について、がん対策推進計画（第2次）でも引き続き達成に向けて取組みを進めていきます。

